

# 久下塚遺跡

## － A地点の調査－



2025

本庄市教育委員会

く げ づか い せ き  
久下塚遺跡  
— A地点の調査 —

2025

本庄市教育委員会



## 序

本庄市は、北は利根川を挟んで群馬県と接し、南は上武山地の山々が連なる自然豊かな埼玉県北西部に位置しています。中央部には、豊かな穀倉地帯が広がりながらも、南北に国道462号、東西に上越新幹線が走り、のどかな田園風景の中にも近代的な交通網が発達している地域でもあります。特に、上越新幹線の停車駅である、JR本庄早稲田駅は令和6年3月に開業20周年を迎えました。

このように、交通の要衝として発展し、本庄早稲田の杜など新しい街並みもできる一方で、開発に伴う遺跡の現状保存は困難なものとなっていることもまた事実です。開発と遺跡保存の共生をはかり、発掘調査を行い、記録として保存し、後世へと伝えることが本市教育委員会の努めであります。

本書に報告する久下塚遺跡A地点は、JR本庄早稲田駅の北西側に位置し、道路の拡幅工事に伴って発掘調査が行われました。周辺にはかつて勇壮な姿を誇った公卿塚古墳をはじめ、多くの古墳が存在し、今回の調査では溝跡が3条検出されました。

今後は、本書が学術的な資料としてはもとより、市民の学びの場で広く活用されるものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成にあたり、多大な御協力を賜りました関係諸機関並びに周辺地域関係者の皆様に対しまして、心から御礼申し上げます。

令和7年1月

本庄市教育委員会  
教育長 下野戸 陽子



# 例 言

1. 本書は、本庄市北堀地内における道路拡幅工事に伴い実施した、久下塚遺跡A地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は本庄市の委託を受けた株式会社ラクロが、本庄市教育委員会の指導のもとに実施した。
3. 調査概要および調査組織は以下の通りである。

所在地 本庄市北堀 1706-1・1706-4 番地

調査面積 66.6 m<sup>2</sup>

調査期間 令和6年7月2日～令和6年7月17日

調査担当者 水野真那（本庄市教育委員会） 金川真也（株式会社ラクロ）

4. 本書は第1章第1節を水野、それ以外を金川・大橋 生（株式会社ラクロ）が協議の上執筆している。
5. 本報告にかかる発掘調査・整理作業及び報告書編集・刊行に関する本庄市教育委員会の組織は下記の通りである。

久下塚遺跡A地点発掘調査組織（令和6年度）

主体者

本庄市教育委員会 教 育 長 下野戸陽子

事務局

本庄市教育委員会事務局 事務局長 笠原栄作

文化財保護課

課 長 小川知子

課長補佐兼文化財保護係長 的野善行

埋蔵文化財係長 大熊季広

主 任 鈴木まゆみ

主 任 水野真那

主 事 福岡佑斗

会計年度任用職員 中嶋淳子 矢内 勲 新井嘉人 落合智恵美

倉林美紀 黒澤 恵 高木由香里 立石佳代子

6. 調査参加者  
(発掘調査) 久保鈴斗 小島信繁 庄田浩章 須永京佑 友野則之  
(整理作業) 飯塚恵津子 岩田真由美 小玉眞理 鈴木ゆか 對馬むつみ 西嶋美咲 峯 瑞穂
7. 出土遺物及び図面・写真等の記録類は、一括して本庄市教育委員会にて保管している。
8. 発掘調査から本書の刊行に至るまで、下記の方々・諸機関より御教示・御協力を賜った。記して深く謝意を表す次第である（敬称略・順不同）。

児玉郡美里町教育委員会 児玉郡神川町教育委員会 児玉郡上里町教育委員会 埼玉県教育局教育総務部文化財・博物館課 早稲田大学考古資料館

## 凡 例

1. 測量は世界測地系座標を用い、挿図中の方位は真北を示す。
2. 挿図中で使用した遺跡の略記号は以下を示す。  
SD：溝跡 K：攪乱
3. 土層および断面図に記した数値は標高を示す。  
遺構の形態・規模は基本的に掘削した状態で判断した。計測は壁上端で行った。  
深さは検出面の最も高い位置から遺構内の最も低い位置まで測り、遺構内施設の深さは床及び底面の位置から計測している。
4. 本書で使用した地図は、以下の通りである。  
第1・3図：国土地理院発行 電子地図 25000（加筆）  
第2図：堀口万吉 1986「Ⅱ 埼玉県の地形と地質」『新編埼玉県史自然編』
5. 掲載した図面の基本縮尺は、以下の通りである。  
全体図・区割図 1／300  
遺構図 1／60  
遺物図 1／3
6. 遺構の土層および遺物の色調表現は、『新版標準土色帖』2008年版（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。また、土層説明中のローム粒子は土色帖中の粒状構造の極小以下である。
7. 遺物観察表に付した（ ）は復元値、< >は残存値として表す。遺物の計測値は規模を「cm」、重量を「g」で表した。
8. 写真図版は、任意の縮尺で掲載した。また遺物番号は本文、挿図、写真図版と一致する。
9. 遺構・遺物実測図中のスクリーントーンおよび記号は、以下に示すとおりである。  
\\\\\\\\ 地山範囲    [ ] 推定線  
■ 須恵器
10. 本遺跡の略号は「53-067」である。遺物の注記もこれに従っている。

# 目 次

序

例言

凡例

目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 第 I 章 調査に至る経緯と経過    | 1  |
| 第 1 節 調査に至る経緯       | 1  |
| 第 2 節 発掘調査の経過       | 2  |
| 第 3 節 整理作業の経過       | 2  |
| 第 II 章 遺跡の地理的・歴史的環境 | 3  |
| 第 1 節 地理的環境         | 3  |
| 第 2 節 歴史的環境         | 4  |
| 第 III 章 調査の成果       | 6  |
| 第 1 節 遺跡の概要         | 6  |
| 第 2 節 検出された遺構と遺物    | 7  |
| (1) 溝跡              | 7  |
| (2) 遺構外出土遺物         | 9  |
| 第 IV 章 まとめ          | 11 |

写真図版

報告書抄録・奥付

## 挿図目次

|       |               |   |       |                |    |
|-------|---------------|---|-------|----------------|----|
| 第 1 図 | 調査区位置図        | 2 | 第 5 図 | A 区第 1・2 号溝跡   | 8  |
| 第 2 図 | 埼玉県 of 地形分類図  | 3 | 第 6 図 | A 区第 2 号溝跡出土遺物 | 8  |
| 第 3 図 | 調査区周辺の主要遺跡    | 5 | 第 7 図 | B 区第 3 号溝跡     | 9  |
| 第 4 図 | 久下塚遺跡 A 地点全測図 | 6 | 第 8 図 | 遺構外出土遺物        | 10 |

## 挿表目次

|       |                   |   |       |            |    |
|-------|-------------------|---|-------|------------|----|
| 第 1 表 | A 区第 2 号溝跡出土遺物観察表 | 8 | 第 2 表 | 遺構外出土遺物観察表 | 10 |
|-------|-------------------|---|-------|------------|----|

## 図版目次

|      |                     |      |                     |
|------|---------------------|------|---------------------|
| 図版 1 | A 区完掘（北から）          | 図版 2 | B 区完掘（東から）          |
|      | A 区第 1 号溝跡土層断面（東から） |      | B 区第 3 号溝跡土層断面（東から） |
|      | A 区第 1 号溝跡完掘（東から）   |      | B 区第 3 号溝跡完掘（東から）   |
|      | A 区第 2 号溝跡土層断面（東から） |      | B 区作業風景             |
|      | A 区第 2 号溝跡完掘（東から）   | 図版 3 | 出土遺物（1）             |
| 図版 2 | B 区完掘（北から）          | 図版 4 | 出土遺物（2）             |

# 第 I 章 調査に至る経緯と経過

## 第 1 節 調査に至る経緯

令和 5 年 5 月 10 日(水)、本庄市北堀 186-1 番地先道路において道路拡幅工事を計画している本庄市都市整備部道路整備課道路街路係より、同開発予定地に関する『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて(照会)』の照会文書が本庄市教育委員会に提出された。

これを受けて、市教育委員会は、埼玉県教育委員会発行の『埼玉県遺跡地図』(令和 4 年度版)をもとに、同地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しているか照会を行ったところ、照会地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である本庄 67 号遺跡(埼玉県遺跡番号 No. 53-067)の包蔵地内に所在していることが判明した。

そのため、市教育委員会では、当該事業計画地について遺跡保存のための基礎資料を得るために試掘調査を行うこととし、令和 5 年 8 月 22(火)・23 日(水)にわたり、現地調査を実施した。試掘調査の結果、事業予定地内にて保存対象となる埋蔵文化財として、溝跡 2 条が検出された。

この試掘調査の結果に基づいて、本庄市都市整備部道路整備課と開発予定地に所在する埋蔵文化財の保存について協議を実施したが、計画変更等は困難であるため、事業予定地内において、新規に道路を付設する範囲を発掘調査し、記録保存の措置をとることとなった。

かくして、本庄市都市整備部道路整備課の発掘調査事業について、令和 6 年 4 月 1 日付けで本庄市教育委員会事務局文化財保護課が執行委任を受け、現地における発掘調査を実施する運びとなった。

発掘調査に関わる通知は、本庄市長吉田信解より文化財保護法第 94 条に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」(令和 5 年 5 月 10 日付)が、本庄市教育委員会の進達文(令和 5 年 10 月 5 日付本教文発第 199 号)を副えて、埼玉県教育委員会に提出されている。埼玉県教育委員会からは、工事着手前に発掘調査を実施する旨の指示が記された「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について(通知)」(令和 6 年 3 月 14 日付教文資第 4-2290 号)が本庄市長吉田信解に通知された。

遺跡の名称については、新たに久下塚遺跡とする旨の変更増補が令和 6 年 4 月 25 日付本教文発第 34 号で埼玉県教育委員会に提出され、受理された旨の「埋蔵文化財包蔵地の周知について(通知)」(令和 6 年 4 月 25 日付教文博第 9-4 号)が本庄市教育委員会に通知された。

また、本庄市教育委員会より文化財保護法第 99 条に基づく「埋蔵文化財発掘調査の通知について」(令和 6 年 6 月 14 日付本教文発第 98 号)が、埼玉県教育委員会に提出されている。

なお、現地における発掘調査は令和 6 年 7 月 2 日(火)から同年 7 月 17 日(水)の日程で行われた。

(本庄市教育委員会事務局)



第 1 図 調査区位置図

## 第 2 節 発掘調査の経過

発掘調査は令和 6 年 7 月 2 日～同年 7 月 17 日にかけて実施した。調査対象地は 2 箇所に分かれており、便宜上、北側調査区を A 区、南側調査区を B 区とした。2 日から本庄市教育委員会により、周囲に仮囲い用ネットの設置や資材の搬入後、重機を用いた表土掘削を行った。その後発掘作業員に対して安全教育訓練を実施したのちに 4 日から調査を開始した。翌 5 日には A 区と B 区の溝状遺構掘削を開始、遺構は人力によって掘削している。測量は、手実測による断面図及び、機械測量による平面図を作成している。また写真撮影は、遺構検出、土層断面、完掘状況など必要に応じて適宜デジタルカメラを使用して記録した。10 日に B 区が完掘し、全景撮影を行った。17 日には A 区も完掘したので全景撮影を行った。

その後本庄市教育委員会により重機を用いた調査区埋め戻しと撤収作業を行い、現地作業は完了した。

## 第 3 節 整理作業の経過

整理作業は発掘調査が終了した 7 月期下旬から行っている。7 月・8 月期中旬は平面図の作成、遺物の洗浄作業、8 月期下旬以降は平面図、土層断面図のトレースや修正、遺物の注記、接合を行った。9 月期は 8 月期の作業に加えて、平面図や土層断面図の編集、文章や、各種データの作成、遺物の抽出、実測、拓本作業を行っている。10・11 月期は編集作業を中心に行い、本庄市教育委員会に初校を提出。3 回の校正を経て印刷・製本作業を行い、令和 7 年 1 月 27 日に発行に至っている。

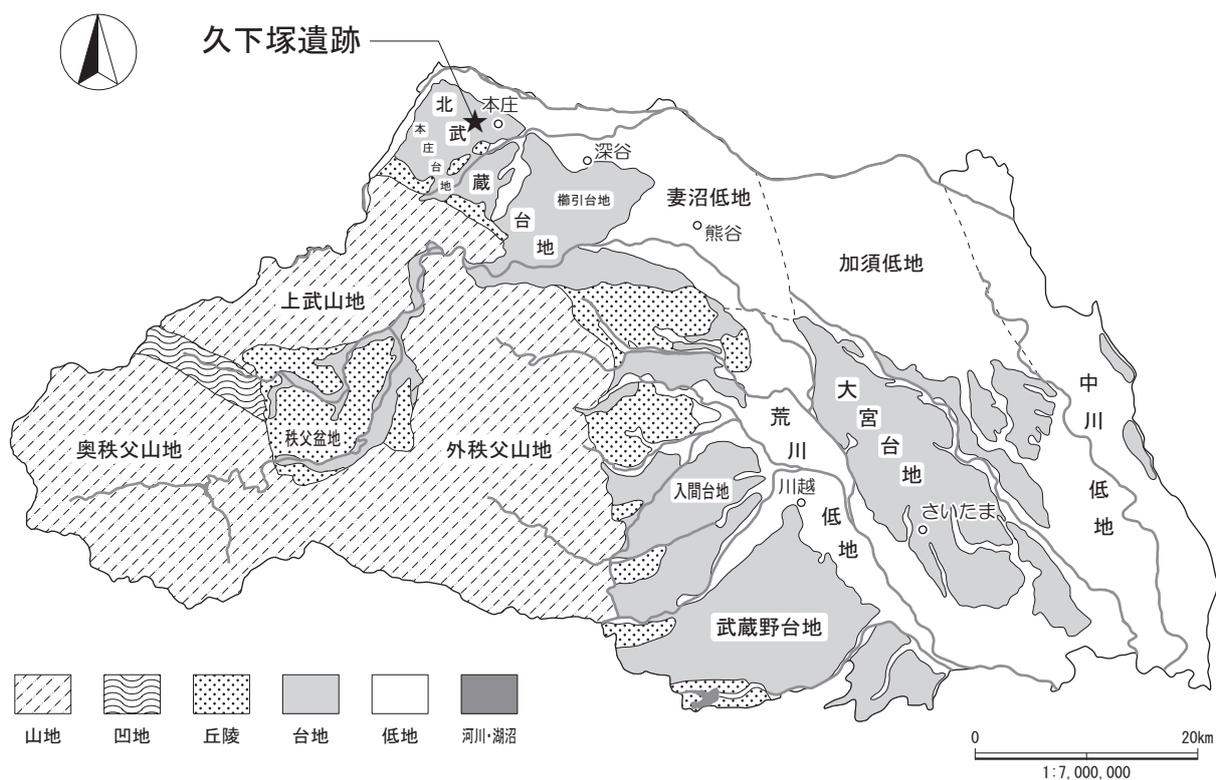
## 第Ⅱ章 遺跡の地理的・歴史的環境

### 第1節 地理的環境

本庄市は埼玉県北部に位置し、平成18年に児玉町と合併した。市域は、利根川右岸の低地や沖積地からなる北東部、市街地化の中心をなす台地、低位段丘からなる中央部、上武山地に連なる山地や丘陵が広がる南西部の3つに大きく分かれている。

低地は利根川や烏川の氾濫原で妻沼低地の一部であり、下流に広がる加須低地へと連なる。台地はいわゆる北武蔵台地最北の本庄台地があり、主に神流川扇状地と身馴川扇状地の複合扇状地性の台地になっている。神流川扇状地は群馬県鬼石町浄法寺付近を扇の要とし、扇の端は本庄段丘崖を形成している。身馴川扇状地は、北西側を児玉丘陵、南東側を松久丘陵、櫛引台地にはさまれた一帯である。こうした低位段丘や台地を女堀川、小山川（旧身馴川）などの諸河川が流れており、河川沿いを中心に中央部の一帯が市域でも最も遺跡が濃密に分布する地域である。

本遺跡も市域中央の男堀川と女堀川に挟まれた低位段丘の南縁寄りに位置し、上越新幹線本庄早稲田駅からは北西300mほどの距離である。



第2図 埼玉県の地形分類図

## 第2節 歴史的環境

以下では、今回の調査で主体を為すとみられる古墳時代を中心に周辺の主要な遺跡を概観する。古墳時代前期の集落跡は、丘陵部に分散する弥生時代後期の遺跡の様相から大きく変貌を遂げ、河川に縁取られた台地縁辺、低地内の自然堤防、低位段丘上に多く形成される。本遺跡周辺の前期集落跡は、久下東・久下前遺跡(1)、七色塚遺跡(2)、下田遺跡(3)、山根遺跡(4)、西富田・四方田条里遺跡(a)、地神遺跡(5)、塔頭遺跡(6)、今井条里遺跡(b)と多数みられ、その多くの遺跡が古墳時代前期中葉以降に営まれた集落跡である。次いで古墳時代中期の集落跡は、遺跡の規模、遺跡数、いずれの点においても急激な増加傾向がみられる。前述した古墳時代前期の遺跡の多くで、中期以降、堅穴住居跡の数が増すとともに生活域の規模が大きく拡大する。中でも北堀久下塚北遺跡(7)、久下東遺跡(8)、北堀新田前遺跡(9)、北堀新田遺跡(10)、久下前遺跡(11)などでは、集落の拡大傾向は古墳時代後期の7世紀半ば頃まで継続するようである。

一方で墓域は、本遺跡や北堀新田前遺跡、北堀新田遺跡の集落から見上げるような丘陵上に築造されるものと、少数ながら集落遺跡と同様に低位段丘上に展開するものとに大別される。大久保山の南側、東西にのびる支丘上には、7基の方形周溝墓、2基の前方後方墳が確認されている本庄市および美里町の塚本山古墳群(A)があり、その北西には、7基の方形周溝墓が確認された飯玉東遺跡(12)、南西には、墳丘長60m前後の前方後方墳である鷺山古墳(13)が位置する。鷺山古墳の南西の、生野山の残丘が連なる位置には生野山古墳群(B)が展開する。生野山古墳群には、中期以降、格子目タタキ技法の円筒埴輪を伴う、金鑽神社古墳(14)や、埴輪を伴わないとされる生野山將軍古墳や生野山物見塚古墳などが築かれている。塚本山古墳群の南東、小山川(旧身馴川)沿いの微高地上には、やや特異な形状の前方後方墳が検出された美里町村後遺跡(15)、扇状地内をさらに下った微高地上には、方形周溝墓が4基検出された深谷市大寄B遺跡(16)、志戸川流域の微高地上には、下流から方形周溝墓11基と前方後方墳1基が確認された深谷市石蒔B遺跡(17)、方形周溝墓9基と前方後方墳1基が確認された美里町南志渡川遺跡(18)、および志渡川古墳(19)がある。南志渡川遺跡の東側、諏訪山丘陵の西麓裾部には6基の埋葬施設を有し、方格規矩鏡、獣形鏡、石製模造品などが出土した美里町長坂聖天塚古墳(20)があり、同丘陵の先端部には特異な形態の壺形埴輪が出土した美里町川輪聖天塚古墳(21)がある。両古墳はともに墳丘径40～50mの円墳とされている。低位段丘上に築造されたものは前期に比定される北堀新田前遺跡第1～3号墓が知られ、また、本遺跡の北側には、中期の大型円墳である公卿塚古墳(22)が築かれている。

以上のことから、周辺一帯は古墳時代前期から中期にかけて種々の立地、形態、規模の墳墓、墓域の集中地帯であった。また、周辺には後期以降の古墳群も多く、塚本山古墳群、東富田古墳群(C)、西五十子古墳群(D、E)、東五十子古墳群(F)、生野山古墳群などがみられる。宍勝寺北裏遺跡(23)の支丘先端の北東斜面には、操業時期が6世紀後葉とみられる県内でも稀な埴輪窯跡である宍勝寺裏埴輪窯跡(24)が目される。



第3図 調査区周辺の主要遺跡

★久下塚遺跡

1. 久下東・久下前遺跡 2. 七色塚遺跡 3. 下田遺跡 4. 山根遺跡 5. 地神遺跡 6. 塔頭遺跡 7. 北堀久下塚北遺跡 8. 久下東遺跡 9. 北堀新田遺跡 10. 北堀新田前遺跡 11. 久下前遺跡 12. 飯玉東遺跡 13. 鷲山古墳 14. 金鑽神社古墳 15. 村後遺跡 16. 大寄B遺跡 17. 石蒔B遺跡 18. 南志渡川遺跡 19. 志渡川古墳 20. 長坂聖天塚古墳 21. 川輪聖天塚古墳 22. 公卿塚古墳 23. 宥勝寺北裏遺跡 24. 宥勝寺裏埴輪窯跡

A. 塚本山古墳群 B. 生野山古墳群 C. 東富田古墳群 D. 西五十子古墳群 E. 西五十子古墳群・東群 F. 東五十子古墳群

a. 西富田・四方田条里遺跡 b. 今井条里遺跡

※7～11は旧遺跡名

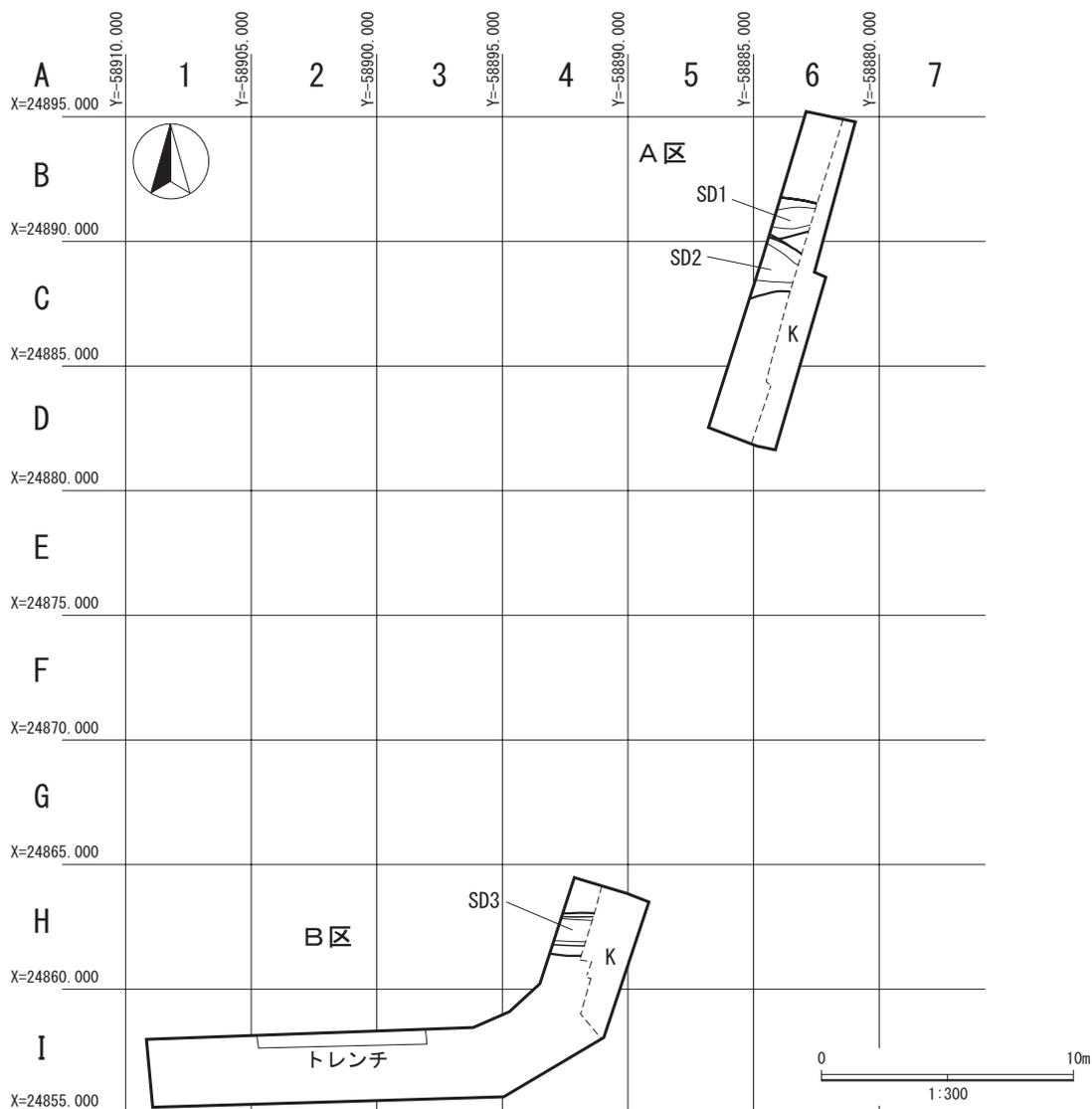
### 第Ⅲ章 調査の成果

#### 第1節 遺跡の概要

本遺跡は本庄市域北側の上越新幹線本庄早稲田駅の北西300mほどに位置し、男堀川と女堀川に挟まれた低位段丘の南縁寄りに立地している。

今回の調査面積はA・B区合わせて66.6㎡、表土から遺構確認面であるローム層上面までの深さは約130cmで、地形はおおよそ平坦である。発掘調査によってA区では東西方向に並走して延びる溝状遺構2条、B区で同じく東西方向に延びる溝状遺構1条が検出された。

しかし道路建設に伴う限られた範囲のみの調査であり、また攪乱の影響を大きく受けているため遺構の全容は不明瞭な部分が多い。出土遺物は古墳時代後期とみられる土師器・須恵器合わせて18点、近世から近代のものとみられる磁器42点・陶器11点・ガラス製品13点である。これらのほとんどがB区表土及び攪乱からの出土であり、遺構に伴う遺物は第2号溝跡より出土した古墳時代後期のものとみられる土師器の細片3点のみであった。収納箱で1箱（容量：縦54cm×横34cm×深さ15cm）、総重量で2,030gである。



第4図 久下塚遺跡A地点全測図

## 第2節 検出された遺構と遺物

### (1) 溝跡

#### A区第1号溝跡 (SD1)

**位置** A区中央部北側のB-6グリッドに位置し、第2号溝跡と一部重複するように並走している。

**検出状況** 部分的な検出のため不明瞭だが、おおよそ東西方向に延びると推測される。ローム層を掘り込んで構築されている。

**規模・形態** 検出範囲では、長さが1.45 m、幅は上端部で1.65 m、底面で0.64 m、深さ0.52 mを測る。断面形は逆台形を呈する。

**覆土** 黒褐色土を主体とし、自然埋没と判断される。

**遺物** 出土していない。

**所見** 第2号溝跡と一部重複し、本跡が先行する。部分的に現代の耕作痕による攪乱跡が著しいため時期や詳細は不明であるが、覆土の状況や切り合い関係、周辺の遺跡の調査から古墳時代後期の所産である可能性がある。

#### A区第2号遺跡 (SD2)

**位置** A区中央部のB・C-5・6グリッドに位置し、第1号溝跡と一部重複するようにローム層上面で検出された。

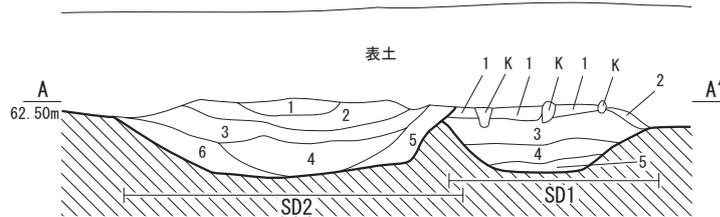
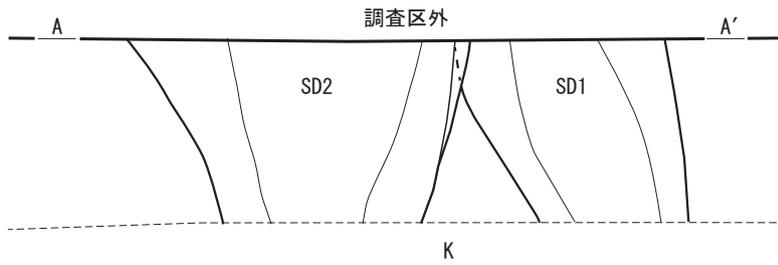
**検出状況** 部分的な検出のため不明瞭だが、おおよそ東西方向に延びると推測される。ローム層を掘り込んで構築されている。

**規模・形態** 検出範囲では、長さが1.44 m、幅は上端部で2.69 m、底面で1.58 m、深さ0.62 mを測る。断面形は逆台形を呈する。

**覆土** 黒褐色土を主体とし、自然埋没と判断される。

**遺物** 土師器の細片が3点出土した。

**所見** 本溝跡が第1号溝跡を壊して構築されているため、第1号溝跡に後続すると考えられる。部分的に現代の耕作痕による攪乱跡が著しい。細片ではあるが古墳時代後期の土師器3点が出土しており、覆土の状況や周辺の遺跡の調査から、古墳時代後期の所産である可能性がある。

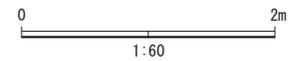


SD1

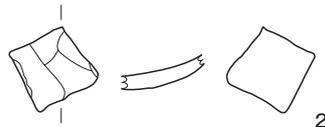
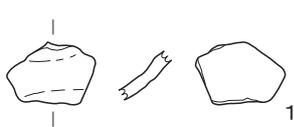
- 1 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、強くしまる。ロームブロック (φ0.3~0.5cm) を少量含む。
- 2 10YR2/3 黒褐色土層 粘性をもち、しまる。ロームブロック (φ0.1~0.3cm) ・礫を少量含む。
- 3 7.5YR2/2 黒褐色土層 強い粘性をもち、ややしまりに欠ける。ロームブロック (φ0.3~0.5cm) を中量、礫を少量含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色土層 強い粘性をもち、しまる。ローム粒子を多量に、褐色土を少量含む。
- 5 10YR4/3 にぶい褐色土層 粘性をもち、ややしまりに欠ける。ロームブロック (φ0.3~0.5cm) を少量、ローム粒子を多量に含む。

SD2

- 1 7.5YR3/1 黒褐色土層 粘性をもち、しまる。ローム粒子を少量含む。
- 2 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、しまる。ローム粒子を多量に含む。
- 3 7.5YR3/1 黒褐色土層 粘性をもち、しまる。ローム粒子を多量に含む。
- 4 10YR2/1 黒褐色土層 やや粘性は欠け、強くしまる。ローム粒子を微量含む。
- 5 7.5YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、ややしまりに欠ける。ローム粒子を少量含む。
- 6 10YR2/2 黒褐色土層 粘性をもち、しまる。ローム粒子・粘土を少量含む。



第5図 A区1・2号溝跡



第6図 A区第2号溝跡出土遺物

第1表 A区第2号溝跡 (SD2) 出土遺物観察表

| 図版番号 | 出土地点  | 種別  | 器種 | 法量 |    |       | 胎土         | 焼成 | 色調             | 残存部位 | 手法の特徴                    | 備考 |
|------|-------|-----|----|----|----|-------|------------|----|----------------|------|--------------------------|----|
|      |       |     |    | 口径 | 底径 | 器高    |            |    |                |      |                          |    |
| 1    | 第2号溝跡 | 土師器 | 坏  | —  | —  | (2.0) | 白色砂粒・赤色砂粒  | 良好 | 内外面: 5YR7/8 橙色 | 体部片  | 外面: ナデ。<br>内面: ナデ。       |    |
| 2    | 第2号溝跡 | 土師器 | 坏  | —  | —  | (3.4) | 白色砂粒・微細長石片 | 良好 | 内外面: 5YR6/8 橙色 | 底部片  | 外面: 多方向ヘラケズリ。<br>内面: ナデ。 |    |
| 3    | 第2号溝跡 | 土師器 | 甕  | —  | —  | (2.1) | 白色砂粒       | 良好 | 内外面: 5YR6/8 橙色 | 胴部片  | 外面: ヘラケズリ。<br>内面: ナデ。    |    |

### B区第3号溝跡 (SD3)

**位置** B区北側のH-4グリッドに位置し、ローム層上面で検出された。

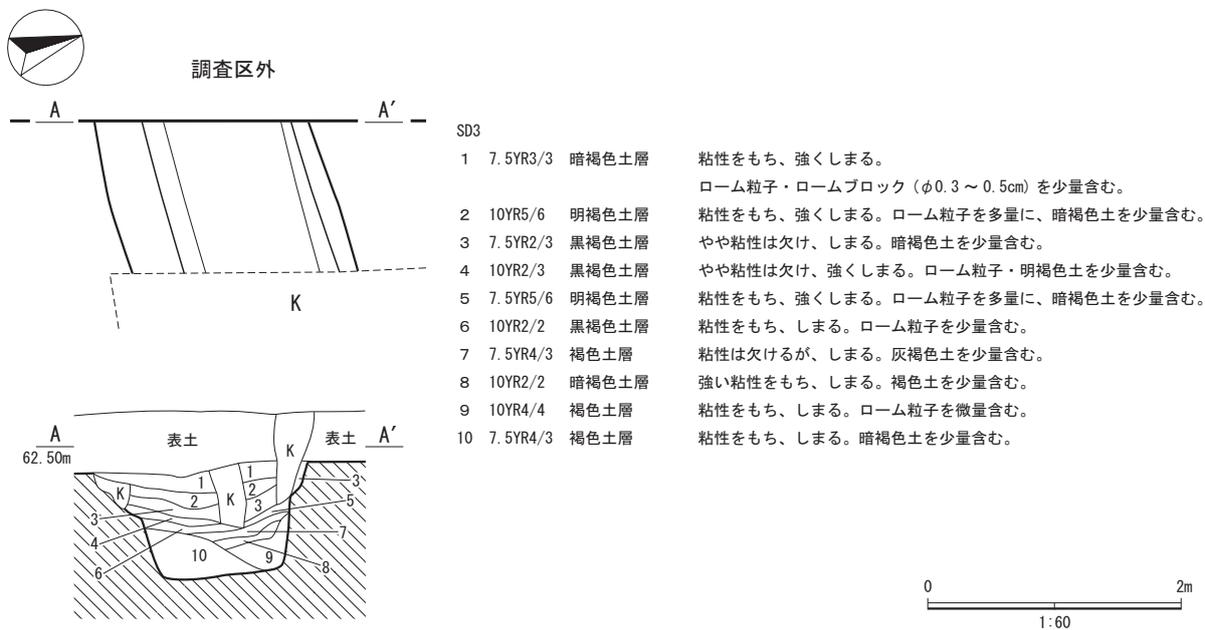
**検出状況** 部分的な検出のため不明瞭だが、おおよそ東西方向に延びると推測される。ローム層を掘り込んで構築されている。

**規模・形態** 検出範囲では、長さが1.19m、幅は上端部で1.72m、底面で0.98m、深さ0.94mを測る。断面形はおおよそ逆台形を呈する。

**覆土** 黒褐色土を主体とし、自然埋没と判断される。

**遺物** 出土していない。

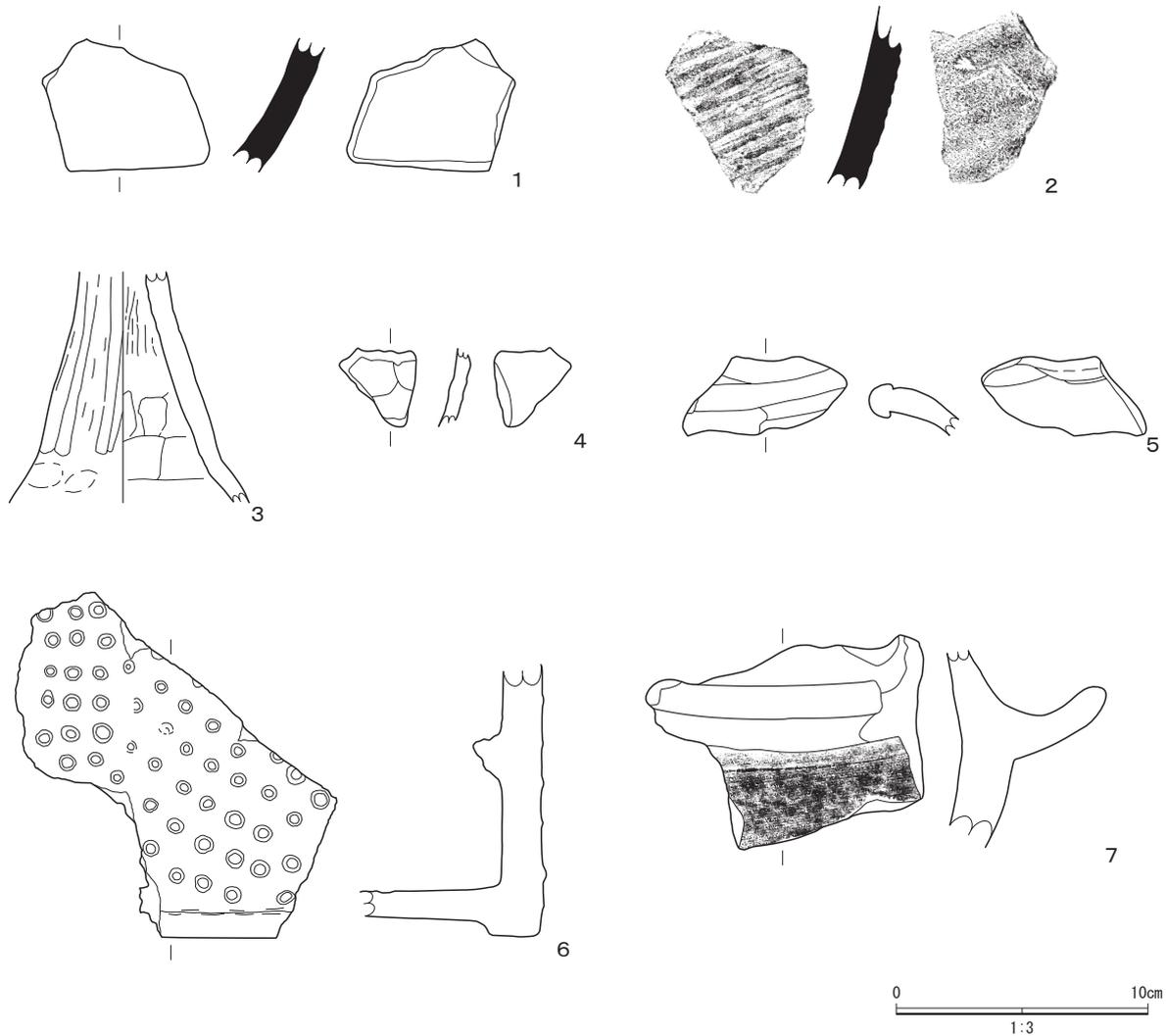
**所見** 部分的に現代の耕作痕による攪乱跡が著しいため時期や詳細は不明であるが、覆土の状況や周辺の遺跡の調査から、古墳時代後期の所産である可能性がある。



第7図 B区第3号溝跡

### (2) 遺構外出土遺物

本調査地点の遺構外から出土した遺物は、須恵器、土師器、陶器、磁器、炆器、土師質土器、瓦質土器、ガラス製品で81点を数える。主にB区表土及び攪乱跡からの出土であり、表土中からは古墳時代後期の土師器の高坏が出土している。このうち7点を図示することができた。1・2は須恵器の甕、3は土師器の高坏、4は土師器の甕、5は土師質土器の甕、6は同じく土師質土器の焜炉であろうか、7は瓦質土器の鏝付き土鍋である。



第8図 遺構外出土遺物

第2表 遺構外出土遺物観察表

| 図版<br>番号 | 出土<br>地点 | 種別    | 器種    | 法量 |    |        | 胎土               | 焼成                                      | 色調      | 残存部位   | 手法の特徴   | 備考 |
|----------|----------|-------|-------|----|----|--------|------------------|---|---------|--|---------|----|
|          |          |       |       | 口径 | 底径 | 器高     |                  |   |         |  |         |    |
| 1        | 遺構外      | 須恵器   | 甕     | —  | —  | (5.1)  | 白色砂粒・微細長石片・灰色砂粒  | 不良<br>内外面：10YR6/1 褐灰色<br>断面：5YR5/6 明赤褐色 | 胴部片     | 外面：ナデ。<br>内面：ナデ。                                 | 器面摩耗顕著。 |    |
| 2        | 遺構外      | 須恵器   | 甕     | —  | —  | (7.3)  | 白色砂粒・微細長石片       | 良好<br>内外面：7.5YR5/8 明赤褐色                 | 胴部片     | 外面：斜方向平行叩き目。<br>内面：ヘラナデ。                         |         |    |
| 3        | 遺構外      | 土師器   | 高坏    | —  | —  | (9.3)  | 白色砂粒・微細長石片・微細石英片 | 良好<br>外面：7.5YR6/8 橙色<br>内面：10YR6/6 明黄褐色 | 脚部片     | 外面：縦方向ミガキ。下端オサエ。<br>内面：上位紋り痕、下位横方向ヘラケズリ。         |         |    |
| 4        | 遺構外      | 土師器   | 甕     | —  | —  | (3.2)  | 白色砂粒             | 良好<br>内外面：2.5YR5/8 赤褐色                  | 胴部片     | 外面：ヘラケズリ。<br>内面：ナデ。                              |         |    |
| 5        | 遺構外      | 土師質土器 | 壺     | —  | —  | (3.2)  | 白色砂粒・微細雲母片       | 普通<br>内外面：7.5YR6/8 橙色                   | 口縁部破片   | 外面：口縁部玉縁状、胴部横方向ヘラケズリ。<br>内面：ナデ。                  |         |    |
| 6        | 遺構外      | 土師質土器 | 焜炉カ   | —  | —  | (13.8) | 白色砂粒・微細石英片       | 良好<br>内外面：2.5YR5/6 明赤褐色                 | 側部から底部片 | 外面：縦・斜方向の型抜き円文。<br>内面：中央部に突出。<br>底部：幅広の低い削り出し高台。 |         |    |
| 7        | 遺構外      | 瓦質土器  | 鏝付き土鍋 | —  | —  | (7.9)  | 白色砂粒・微細石英片・微細長石片 | 良好<br>内外面：2.5Y4/1 黄灰色                   | 胴部・鏝部   | 外面：上面に反る鏝部、胴部下位丸文の集合。<br>内面：ナデ。                  |         |    |

## 第Ⅳ章 まとめ

今回は道路拡幅工事に伴う調査のため 66.6 m<sup>2</sup> という狭い範囲に限定され、検出された遺構は A 区で溝状遺構 2 条（第 1・2 号溝跡）、B 区で溝状遺構 1 条（第 3 号溝跡）のみである。いずれの遺構も東西方向へ延びるような状況で検出され、南北方向に広がる調査区と直交している。そのため確認できた遺構はどれもごく一部分に留まる。また、遺構に伴う出土遺物も A 区第 2 号溝跡から出土した土師器が 3 点のみであったため、各遺構の年代や性格等の全容は不明瞭な点が多い。しかしながら出土した 3 点はいずれも古墳時代後期の土師器と考えられる。また、今回攪乱内から出土した遺物のほとんどが中世から近代のものではあったが、その中に一部ではあるが古墳時代後期の高坏なども確認できた。これらのわずかな出土遺物や遺構の覆土の状況、また本調査区周辺には古墳時代後期の古墳群や集落が多数分布しているという点からも、検討の余地は残されるものの古墳時代後期の所産である可能性が指摘できる。

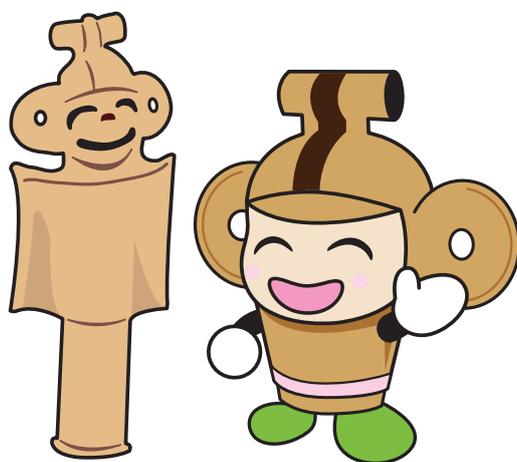
今回確認できなかった部分については、今後の発掘調査や資料の蓄積をもって明確になっていくであろう。

### 参考文献

- 松本 完 2004 『九反田（Ⅲ次調査）・観音塚（Ⅲ次調査）』本庄市埋蔵文化財調査報告第 28 集、本庄市教育委員会
- 2013 『久下前Ⅴ（F 1 地点）・久下東遺跡Ⅵ（G 1 地点）』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 32 集、本庄市教育委員会
- 松本 完・大熊季広他 2009 『浅見山Ⅰ遺跡（Ⅲ次）・久下東遺跡（Ⅲ次）A 1・B 1 地点・北堀久下塚北遺跡』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 13 集、本庄市教育委員会
- 松本 完・町田奈緒子 2002 a 『久下前遺跡第 3 地点発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告第 25 集、本庄市教育委員会
- 2002 b 『大久保山遺跡浅見山Ⅰ地区（第 2 次）・北堀前山古墳群（第 2・3 次）発掘調査報告書』本庄市遺跡調査会報告第 6 集、本庄市遺跡調査会
- 松本 完・的野善行 2007 「発掘調査情報Ⅰ 本庄市北堀新田前遺跡の調査」『情報』28、埼玉考古学会
- 2010 『久下前遺跡Ⅲ（C 1 地点）・北堀新田遺跡Ⅱ（A 1 地点）・宍勝寺北裏遺跡Ⅲ（A 1・B 1 地点）』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 23 集、本庄市教育委員会
- 松本 完・藤根 久・孔 智賢・佐々木由香・米田恭子・小林絃一・伊藤 茂・廣田正史・瀬谷 薫  
Zaur Lomatidze・Ineza Jorjoliani 2015 『北堀新田前遺跡Ⅱ（A 2・A 3 地点）・北堀新田遺跡Ⅳ（A 2・B 地点）・久下東遺跡Ⅷ（G 3 地点）』本庄市埋蔵文化財調査報告書第 44 集、本庄市教育委員会



# 写真図版



本庄市マスコット

はにぽん





A区完掘（北から）



A区第1号溝跡土層断面（東から）



A区第1号溝跡完掘（東から）



A区第2号溝跡土層断面（東から）



A区第2号溝跡完掘（東から）

図版 2



B区完掘（北から）



B区完掘（東から）



B区第3号溝跡土層断面（東から）



B区第3号溝跡完掘（東から）

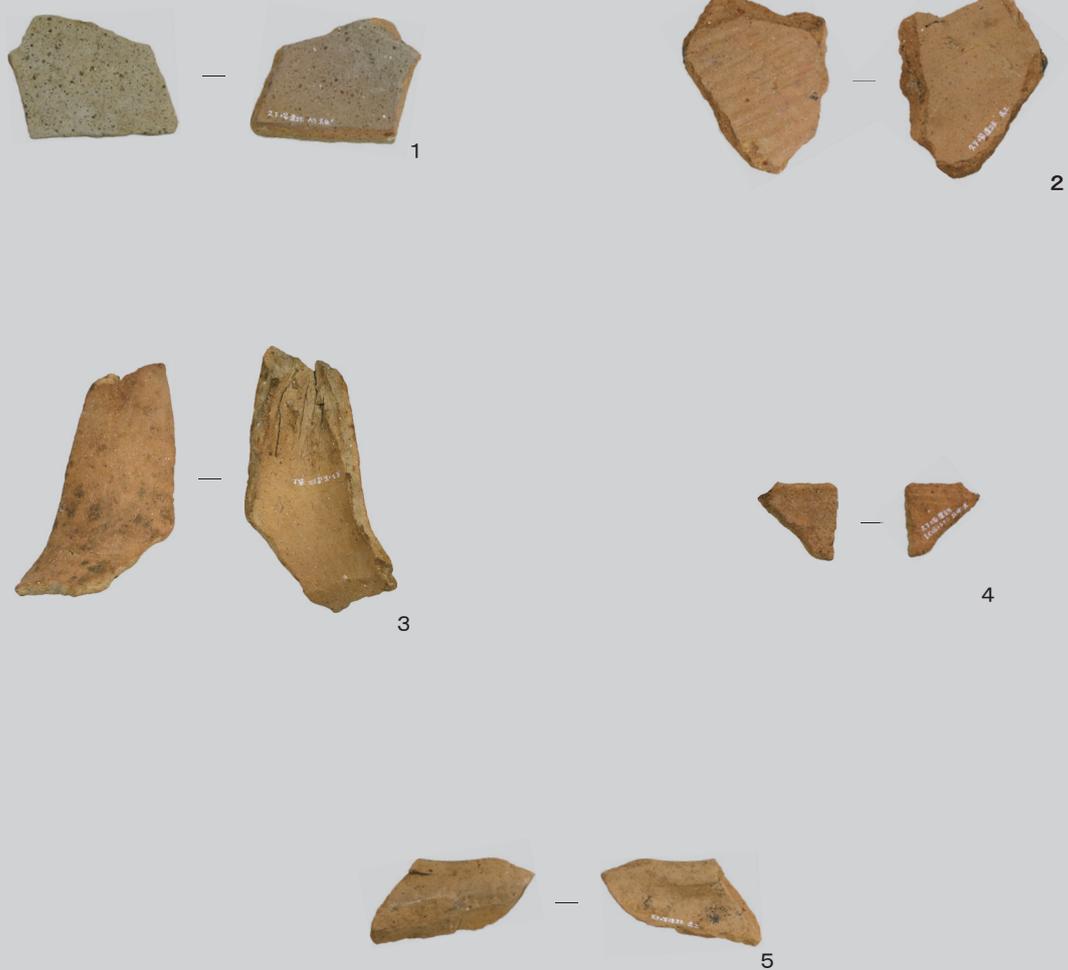


B区作業風景

A区第2号沟迹



遺構外出土遺物 (1)



出土遺物 (1)

図版 4

遺構外出土遺物 (2)



出土遺物 (2)

# 報告書抄録

| フリガナ                             | クゲヅカイセキエーチテン  |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
|----------------------------------|---|--------|----------|-------------------|-------------------------------|--------------------------------|------------------------|--------|
| 書名                               | 久下塚遺跡A地点  |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| 副書名                              | 道路拡幅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書   | 巻次     | 第77集     |                   |                               |                                |                        |        |
| シリーズ名                            | 本庄市埋蔵文化財調査報告書   |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| 編著者名                             | 水野真那・金川真也・大橋 生  |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| 編集機関                             | 本庄市教育委員会  |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| 所在地                              | 〒367-8501 埼玉県本庄市本庄三丁目5番3号 ☎ 0495-25-1185  |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| 発行年月日                            | 2025（令和7）年1月27日   |        |          |                   |                               |                                |                        |        |
| フリガナ<br>所収遺跡名                    | フリガナ<br>所在地   | コード    |          | 北緯                | 東経                            | 調査期間                           | 調査<br>面積               | 調査原因   |
|                                  |   | 市町村    | 遺跡<br>番号 | ° / ' / "         | ° / ' / "                     |                                |                        |        |
| クゲヅカイセキ<br>久下塚遺跡<br>チテン<br>(A地点) | サイタマケンホンジョウシ<br>埼玉県本庄市<br>キタボリ<br>北堀 1706-1・<br>バンチ<br>1706-4 番地  | 112119 | 53-067   | 36°<br>13'<br>21" | 139°<br>10'<br>42"            | 2024. 7. 2<br>～<br>2024. 7. 17 | 66.6<br>m <sup>2</sup> | 道路拡幅工事 |
| 所収遺跡名                            | 種別  | 主な時代   | 主な遺構     |                   | 主な遺物                          |                                |                        |        |
| 久下塚遺跡                            | 集落跡   | 古墳時代   | 溝跡       | 溝跡 3 条            | 須恵器・土師器                       |                                |                        |        |
|                                  |   | 中世以降   | —        | —                 | 陶器・磁器・炆器・土師質土器・<br>瓦質土器・ガラス製品 |                                |                        |        |
| 要 約                              | 今回の調査ではA区で溝跡2条・B区で溝跡1条が検出されている。その溝跡からは古墳時代後期とみられる土師器の細片が出土している。周辺には古墳群や該期の集落が展開していることから、それらとの関連性が想定される。 |        |          |                   |                               |                                |                        |        |

本庄市埋蔵文化財調査報告書第77集

# 久下塚遺跡

－ A地点の調査－

令和7年1月26日印刷

令和7年1月27日発行

発行／本庄市教育委員会

印刷／関東図書株式会社